



学校だより

第6号

令和2年9月30日発行
品川区立第四日野小学校
校長 島崎 一江
<http://school.cts.ne.jp/hino4/>

第四日野小学校 開校 95 周年 おめでとうございます。

副校長 小山 努

令和2年10月16日、本校は開校95周年の佳節を迎えます。大正14年の開校以来95星霜、本校を創り上げてこられた9642名の卒業生・同窓の諸先輩方、保護者の皆様、地域の皆様、教職員・関係諸機関の皆様に衷心より御礼を申し上げます。さらに時を同じくして、開校100周年記念事業として「第四日野小学校校舎改築工事計画概要」が発表されました。かむろ坂の桜花と融合し、郷土の学び舎、地域の交流拠点として、自然と地域との一体化をコンセプトとする新校舎改築計画を共々に喜び合いたいと思います。おめでとうございます。

この度、改めて第四日野小学校の歴史を紐解いてみました。すると、必ずしも順風満帆ではなく険難な時代を数々乗り越えてこられた歩みを垣間見ることができます。開校60周年記念座談会記録にこのような件が記されています。「(今から30年前) 不動前から五反田駅まで見渡せるような焼け野原の中で、地域の人たちが自分達の未来の拠り所として学校を考えていた。戦後の防空壕生活を余儀なくされてきたバラック住まいに焼きトタンの屋根の生活の方達が、進んで2円3円というお金を協力してくれた。一日中一粒の米も手に入らない時代だったのに、それは尊いものだった。」(一部抜粋) つまり、戦火で校舎は灰塵と化してしまい、廃校の危機にあった第四日野小学校と子どもたちを救済したのは、地域や保護者の皆様であったということです。

時は、2020年令和2年度。学校は有史以来初めて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3か月余の臨時休業、分散登校、自宅学習を余儀なくされました。次元は違えども、ここでもまた、保護者や地域の皆様に支えていただきました。一斉登校を再開している10月現在も、いまだ感染防止対策を判断基準として教育活動を展開しておりますが、この2学期よりは、多くの学習ボランティアや保護者の皆様や地域、商店街の皆様も、子どもたちの教育活動の指導・支援に立ちあがってくださいました。また、先日は、地域の桐若囃子保存会や不動前駅通り商店街の皆様が、児童一人一人に除菌ボトルを寄贈して下さることに加え、「アルコール除菌液を贈る運動」として、残暑厳しき街頭で募金活動をしてくださいました。本当にありがとうございます。

ある医学者は、人類の感染症との闘いの歴史を考察した上で、感染症予防の要諦は「利他の精神」「共助の精神」にあると結論付けています。まさに、第四日野小学校は、保護者・地域の皆様の「利他」と「共助」の哲学をベースとした行動によって創造されてきた学校であると受け止めることができます。今日より明日へ、100周年へ。深い感謝の思いとともに、この伝統と歴史を継承する後継の人材「地域が誇る、強く・やさしい四日野っ子」を育てていくことをお誓いしてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。